

「愛媛の未来づくりプラン」推進懇話会(書面)の開催結果

1 令和3年度第1回「愛媛の未来づくりプラン」推進懇話会(会長 東渕則之松山大学経営学部教授)を、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、書面で開催した。第3期アクションプログラム中間評価(案)への意見や今後の施策展開に向けた提言等の開催結果は以下のとおり。

① 第3期アクションプログラム成果指標の進捗状況

- ▼成果指標のうち、全体の約37%で順調に進捗しているが、昨年度と比べて、10ポイント減少。基準値より悪化している指標の割合は約30%で、6ポイント増加。
- ▼観光分野や県有施設の利用者数など、主に人の動きに係る指標において新型コロナの影響を大きく受けている。

	☆ 37%	◎	○	△	▲ 30%	—	合計
	目標達成	きわめて良好	基準値より上昇	基準値横ばい	基準値より悪化	判定不可	
指標数	41	37	46	11	63	13	211

② 委員からの主な意見

i 中間評価(案)について

- ・厳しい環境下にあるものの、成果指標全211のうち78指標(全体の約37%)で概ね順調に進捗しており、各分野での具体的な取組みと成果が認められる。
- ・全体として指標の進捗は昨年度より悪化しており、新型コロナの影響を踏まえるとやむを得ないところもあるが、様々な工夫を凝らしながら取組みは着実に実施されている。
- ・第3期アクションプログラムの最終年に向けて、ウィズコロナも前提としながら各施策を一段と効果的かつ実効的に展開し、本県の持続的発展につなげてほしい。

ii 今後の施策展開について

- ・コロナ収束を待つのではなく、観光や医療の分野ではウィズコロナ前提の取組みが必要。
- ・2021~2023年卒学生の就職活動は、その後のキャリア形成や離職率に影響する可能性があり、そのことを踏まえた取組みも必要。
- ・産業人材力向上の観点で、経営者の気づきや成長を促す取組みへの支援も望ましい。
- ・女性の力を一つのキーワードに各施策の展開を発想することで、人を幸せにする価値創出がなされ、経済活性化や移住、合計特殊出生率の上昇につながると期待される。
- ・気候変動に伴う非常変災に備えた対応やDXを更に加速させた経済促進支援等が必要。
- ・新しい生活様式への変化に応じた施策の検討を進めてもらいたい。
- ・今後のキーワードとして、SDGsははずせない。新型コロナ対策をしながらも、持続可能な社会を目指すというメッセージが必要ではないか。
- ・今後、「四国」や「瀬戸内」など広域連携を行うことで効果が見込める分野で事業ニーズを喚起するためにも、更なる広域連携を検討・研究する必要がある。

2 委員の意見については、令和4年度の重点戦略方針の検討に生かしていくこととする。